

〔大仙市〕

令和3年度 高齢者の自立支援・介護予防・重度化防止等に係る重点施策の進捗状況・評価

タイトル	高齢者の自立支援、介護予防の推進
------	------------------

大目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域が目指すべき姿 など <p>高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができる</p>
中目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目指すべき姿を実現するための具体的な目標 <p>認知症の方が自分らしく地域で暮らし続けることができる 高齢者が活動的に暮らすことができる</p>
小目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標達成のための具体的な施策 など <p>地域の方の認知症についての理解を向上させる 地域の高齢者の外出頻度が増える</p>

現状と課題

厚生労働省の平成30年の推計によると、65歳以上の高齢者の約7人に1人が認知症と見込まれており、本市に当てはめると4,300人以上となります。さらに軽度認知障害（MCI）の推計を合わせると7,500人を超え、高齢者の実に約4人に1人が認知症又はその予備軍ということになります。認知症は多くの方にとって身近なものであり、正しく理解してもらうための普及啓発が課題となっています。

また、日常生活圏域ニーズ調査の今後充実してほしい高齢者施策において、「健康づくりや介護が必要にならないための予防支援」が上位に位置しています。高齢者一人ひとりによって心身の状態は異なり、運動・口腔機能の向上や栄養改善及び認知機能の維持向上に関する取り組みが必要です。

具体的な取組

・ 認知症サポーター養成事業

認知症について正しく理解し、地域や職域（商店や金融機関等）、学校教育において、認知症の方や家族を手助けする認知症サポーターの養成講座を開催します。また、講座で得た知識や経験を生かして自主的な活動を行い、地域に根ざして助け合いの担い手として活躍できるサポーターを育成するための体制を構築します。

・ 自主グループ活動支援事業

主に平成25年度から令和元年度にかけて介護予防普及啓発事業等で実施した教室等が終了した後に、自主サークル・サロンとなった場合にその自主活動が積極的に継続できるよう、健康運動指導士の運動プログラムの提供、歯科衛生士による口腔講話や管理栄養士による栄養講話等の実施、保健師による自主運営・継続等のための支援、要望に応じて介護予防ボランティアの「いきいき隊」の派遣支援等を行います。

※自主グループ

市の介護予防教室から立ち上がったサークルまたは、市で活動支援を行っているサークル等

目標（事業内容、指標等）

認知症サポーター養成講座受講者数の増加を目指す。

	実績	見込量		
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
養成講座 受講者数	288人	220人	220人	220人

※R2年度以降は、コロナ禍の影響で受講者数が減少する見込み。

自主グループ参加者実人数の増加を目指す。

	実績	見込量		
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
自主グループ 参加者実人数	749人	820人	820人	820人

※令和3年度から総合事業サービスB通所型を開始しており、当事業についても、高齢者の外出頻度増加を望めることから、指標に盛り込む。

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - ・ 認知症サポーター養成講座の参加者数の把握
 - ・ 自主グループ参加者実人数の把握

前期（中間見直し）

令和3年11月16日

実施内容

認知症サポーター養成講座（前期 開催回数：6回、受講者数：204人）
 自主グループ参加者実人数（715人）

自己評価結果

※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること

【○】

感染症予防対策を講じながら、養成講座の開催と自主グループの活動支援を行うことができた。その結果、地域の認知症に対する寛容性の向上及び高齢者の外出頻度の増加に寄与したものと考えられる。

課題と対応策

認知症サポーター養成講座については、コロナ等の感染状況によって開催が見送られることが課題ではあるが、開催決定については状況を見ながら慎重に判断していく。

後期（実績評価）

令和4年5月27日

実施内容

認知症サポーター養成講座（後期 開催回数： 8回、受講者数：212人）
（全体 開催回数：14回、受講者数：416人）
自主グループ参加者実人数（715人）

自己評価結果

※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること

【○】

感染症予防対策を講じながら、養成講座の開催と自主グループの活動支援を行うことができた。その結果、地域の認知症に対する理解の向上と高齢者の外出頻度の増加に寄与したものと考えられる。

自主グループについては、コロナ等の感染状況を踏まえて、自主的に開催有無を判断できるようになってきており、運営側としての意識が醸成されてきている。

課題と対応策

認知症サポーター養成講座については、コロナの感染状況によって開催が見送られることがあるため、計画通りに開催できないことが課題ではあるが、開催決定については状況を見ながら慎重に判断していく。

自主グループについては、より安全な活動を継続してもらうため、今後も救急マニュアルの配布や緊急連絡網の整備についての指導を継続し、危機管理の向上に努めていく。

〔仙北市〕

令和3年度 高齢者の自立支援・介護予防・重度化防止等に係る重点施策の進捗状況・評価

タイトル	その人らしく暮らし続けられる地域づくり
------	---------------------

大目標	・地域が目指すべき姿 など
	誰もが住み慣れた地域で自分らしい生活が送られる。
中目標	・目指すべき姿を実現するための具体的な目標
	市民相互が支え合い、仮に認知症になっても住み慣れた地域で安心した生活を送る事が出来る。
小目標	・目標達成のための具体的な施策 など
	・少しずつからでも地域の支え合いの活動に参加することが出来る。 ・市民一人一人が認知症を特別視しない認識が広まる。

現状と課題

本市の高齢化率は43%を超え、人口減少が進んでいる。また近年では、独居の方の相談事例が多く、その背景として家族が遠方に住む方や頼れる家族や親類のいない方も増えてきている。その人らしく地域で過ごし続けられるためには、住民相互がお互いに行える活動を続けながら近隣のつながりを作り、支え合いの地域づくりを進めていくことが重要となる。またそのためには、認知症に対する理解を深めるとともに仮に認知症になっても住み続けられるまちづくりも推進していく必要がある。

具体的な取組

（取組の対象者、参加者など）

- ①認知症サポーター養成講座受講者を増やす。（小中学校、企業、市民、市役所職員向け）
- ②仙北市見守りあんしんシール事業の推進（在宅・施設で暮らす認知症の方）
- ③「支え合いの地域づくり」担い手養成講座の推進（地域づくり等の活動に興味関心のある方）
- ④「きらっと支え合い事業」の推進（小地区における住民）

（取組の内容）

- ①これまで行ってきた認知症サポーター養成講座を市民向けに3回、市職員向けに2回と例年よりも増やして行うことで受講者数を増やす。
- ②仙北市見守りあんしんシール事業が開始となったが、利用者を増やすことで住み慣れた地域での生活が続けられるようにしていく。

- ③「支え合いの地域づくり」担い手養成講座は例年1回のみでの開催であったが、3回とし開催地域や開催曜日を見直しすることで講座の受講者を増やす。
- ④第2層協議体とともに身近な地域での支え合い活動である「きらっと支え合い」事業をさらに拡大していく。

目標（事業内容、指標等）

- ①認知症サポーター養成講座受講者：500名
- ②仙北市見守りあんしんシール事業：5名
- ③「支え合いの地域づくり」担い手養成講座：30名
- ④「きらっと支え合い事業」の推進：5地区

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法

施策の展開状況（整備状況、利用状況、運営状況）など

- ①認知症サポーター養成講座受講者の推移
- ②仙北市見守りあんしんシール事業利用者の推移
- ③「支え合いの地域づくり」担い手養成講座受講者の推移
- ④「きらっと支え合い事業」地域の推移

参加者への影響など

- ①受講後のアンケート結果を分析し認知症に対する認識の変化を確認する。
- ②事業の利用により施設入所だけではない方法として認識されているか。
- ③受講後のアンケート結果を分析し地域への貢献への認識を確認する。
- ④他地域での活用例から新たに行ってみたいと思ってもらえるような認識につながる。

地域への影響など

- ①認知症を特別視しない認識が広まる。
- ②地域でのつながりが深まり孤立が少なくなる。

実施内容
①「仙北市オレンジ相談虎の巻（認知症ケアパスの活用）」の普及：25冊 ②「あんしん♡手帳」の年間発行数の推移：0冊 ③ 認知症カフェ実施団体の推移：5団体 ④「きらっと支え合い事業」の実施：3地区
自己評価結果
※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること
自己評価結果【△】 ①「仙北市オレンジ相談虎の巻（認知症ケアパスの活用）」については、50部の発行目標に対して途中で半分の発行がなされている。今後も積極的に活用できるようにしていきたい。 ②「あんしん♡手帳」についてはなかなか普及が進められていない状態。将来の事と考える傾向があるのか、こちら側まで相談に来るのを待つだけではなく、集いの場などに出向いて積極的に活用を勧めていく必要がある。 ③認知症カフェの開催団体については、コロナ禍の影響か昨年度の実質的な開催が滞っており新たな団体の増加もなされていない状態。包括側も積極的に動くことで開催の有効性を周知していきたい。 ④「きらっと支え合い事業」は第2層支え合い協議体で実施しているが、新たな実施地域を増やすため事業の展開途中であり、年度内には新たな地域が増える見込みである。
課題と対応策
コロナ禍で動けないことだけを理由にするのではなく、感染予防の対策をしながら包括側から積極的に出向きながら活用や発展を呼び掛けていく必要がある。当初の予定を達成できるようにするためには積極的に地域に出向いていくようにしたい。

実施内容
①「仙北市オレンジ相談虎の巻（認知症ケアパスの活用）」の普及：40冊 ②「あんしん♡手帳」の年間発行数の推移：72冊 ③ 認知症カフェ実施団体の推移：6団体（包括直営のカフェ） ④「きらっと支え合い事業」の実施：4地区
自己評価結果
※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること
自己評価結果【△】 ①「仙北市オレンジ相談虎の巻（認知症ケアパスの活用）」については、40部の発行となり

目標を達する事が出来なかった。

②「あんしん♡手帳」は50部以上を目標としたが、各種介護予防教室実施時に参加者に配ることで目標を上回ることが可能となった。

③コロナ禍でなかなかカフェの実施団体が増えていない。既存の5団体に加えて、包括支援センターが直営でカフェを開催している。来てもらうのを待つだけでなく人の集まる場所でカフェを行ったことで多くの参加が得られた。

④「きらっと支え合い事業」は10月より新たな活動団体が増えて4地区での実施が行われている。現時点で立ち上げに向けて動いている段階であり、来年度中にはさらに活動地域が広がる見込みである。

課題と対応策

【課題】

・年度後半の方が市内での感染拡大がみられ、各種事業の開催に影響を与える部分が多くみられた。目標を達しない項目に関しても包括側から積極的に動くことで対応できた項目があった。もっと包括側からの働きかけが必要であったのかもしれない。

【対応策】

・下半期から包括支援センターとしてzoomの有料アカウントを取得し、必ずしも集合しなくても行える方法を実践している段階であり、出来ないことだけを悲観せずに行える方法を模索していく必要がある。

・認知症に関わる部分の項目が多かったが、少子高齢化が進む本市においては地域づくりのために地域における理解を拓げる、支え手側をこれまで以上に増やしていきながら支え合いの地域づくりにつなげていく必要がある。

〔美郷町〕

令和3年度 高齢者の自立支援・介護予防・重度化防止等に係る重点施策の進捗状況・評価

タイトル	高齢者の自立支援・介護予防の推進
------	------------------

大目標	・地域が目指すべき姿 など
	高齢者が認知症や介護が必要になっても住み慣れた地域で自分らしい生活を送ることができる
中目標	・目指すべき姿を実現するための具体的な目標
	認知症予防の啓発と認知症になっても地域で暮らしていくための環境づくり
小目標	・目標達成のための具体的な施策 など
	認知症予防事業の充実と認知症カフェの増設

現状と課題

本町は平成16年の町村合併以来、人口減少が進み、高齢化率は38.7%（令和2年10月時点）です。また、65歳以上の高齢者の約2割が要支援・要介護認定者であり、そのうちの70%は認知症日常生活自立度Ⅱ以上（何らかの認知症を有する）であります。認知症は高齢になるにつれて発症リスクが高くなるため、今後の患者数増加を低減すべく、認知症の予防と早期発見のための事業の推進が課題であります。併せて、認知症になっても「住み慣れた地域で安心して暮らせる環境づくり」として、認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進にも注力していく必要があります。

具体的な取組

〈取組みの内容〉

◎認知症予防と認知症に対する知識の普及

従来、地域支援事業において、地域住民に対し「介護予防教室」を開催していたが、教室内容は認知症予防を主とし、認知症の正しい知識の普及啓発をしていくものとする。参加者にはアセスメントを実施し、認知症リスクの早期把握につなげる。さらに、必要に応じて認知症カフェの紹介や自立支援型地域ケア会議や地域ケア会議で取り上げ、状態改善を図る。

◎認知症サポーター養成事業の実施

地域の高校生、ふれあいサロンの代表者、認知症早期発見事業「気づきの輪」の協力事業者などを対象に認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の知識と対応の仕方などを学ぶ場を設ける。

◎認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進

認知症になっても地域で自分らしく生活していくために、居場所づくりとして「認知症

カフェ」の新設、認知症への理解を深める「認知症サポーター」受講者の拡充、「気づきの輪」のような見守り体制の整備をしていく。

《取組みの対象および参加者》

町内で自主運営している通いの場「ふれあいサロン」（50か所）参加者に対し、認知症予防教室を実施する。また、サロンのない地域の高齢者も参加できるように、一般住民対象の認知症予防事業（健康積み立て講座、健康講話、介護予防講演会）を実施する。

目標（事業内容、指標等）

- ①介護（認知症）予防教室の開催回数（年間40回以上）
- ②認知症サポーター養成講座の受講者数（年間80人以上）
- ③認知症カフェの増設（8期「令和3～5年度」中に3地区で1か所ずつ設置）

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - ①ふれあいサロンでの「介護（認知症）予防教室」の開催回数
 - ②認知症サポーター養成講座の受講者数
 - ③認知症カフェの増設数

前期（中間見直し）

令和3年11月16日

実施内容（4月～9月）

- ①「介護（認知症）予防教室」は22回実施（受講者は204人）。参加者全員にアセスメントを実施し、高リスク者は21人には、必要に応じて訪問等対応した。
- ②認知症サポーター養成講座は六郷高校1年生44人に実施。
- ③認知症カフェは生活支援コーディネーターの協力を得て、年内に立ち上げを予定している。

自己評価結果	
※達成度の設定方法（５段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること	
①実績	22回/目標48回：達成率 45.8%
②実績	44人/目標100人：達成率 44.0%
③実績	0件/目標8期計画内に3件：達成率 0%
課題と対応策	
①「介護(認知症)予防教室」を開催する“ふれあいサロン”の件数が減少し、コロナ禍で活動も縮小傾向にあるが、年度後期の健康積み立て講座、健康講話、介護予防講演会などで、多くの住民に介護予防事業への参加を促したい。	
②「認知症サポーター養成講座」コロナ禍の影響で開催が減っているが、サロンでの開催や老人クラブ、一般企業などでの開催について働き掛けたい。	
③認知症カフェは年度内に立ち上げを予定している。1～2回の開催できるように、調整したい。	

後期（実績評価）

令和4年5月27日

実施内容（10～3月）	
①・「介護(認知症)予防教室」は15回実施(受講者は122人)。アセスメントでの高リスク者は9人で必要に応じて訪問やサービス検討など対応した。	
・「健康積み立て講座」は9回シリーズで開催し、延べ251人参加だった。タブレットを使った脳トレなどで認知症予防について学んだ。	
・「介護予防ボランティア養成講座」は、1回開催し、12人参加した。認知症看護や薬について学んだ。	
健康講話、介護予防講演会、美郷フェスタ（産業祭）は中止になり、大規模な人数に対しての認知症予防事業は実施できなかった。	
②認知症サポーター養成講座は、3月に認知症早期発見事業「気づきの輪」の協力事業所の職員10人に実施した。	
③認知症カフェは在宅介護支援センター、生活支援コーディネーターの協力のもと、今まで認知症カフェがなかった千畑地域で、2回開催（参加者1回15人、2回13人）した。事前申し込みの他、当日参加の方も多く、関心の高さが窺えた。レクリエーションや茶話会という内容だったが、専門職への認知症の相談や、介護サービスについての相談もあり、事業後のアンケートでの満足度も高かった。	
自己評価結果	
※達成度の設定方法（５段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること	
①実績	47回/目標年間48回：達成率 97.9%
②実績	56人/目標年間100人：達成率 56.0%
③実績	1件/目標8期計画内に3件：達成率 33.3%

課題と対応策

- ①町内や周辺市町で感染者数が増加すると、サロンや介護予防教室の開催回数にも影響が出た。前年度に引き続き大規模イベントは開催できず、多くの住民に対する認知症予防の啓発機会もなかったが、認知症ケアパス改訂版を全戸配布することで、紙媒体での予防啓発ができた。次年度も状況が好転しないことも考えられるため、紙媒体での予防啓蒙や「もの忘れ相談システム」を活用した認知症予防・早期発見につながる仕組み作りを検討したい。
- ②認知症サポーター養成講座の受講者数は、高校の生徒数の減少やサロン、老人クラブからの申し込み減少により、目標達成に至らなかった。今後は民生委員、行政協力員、老人クラブ、気づきの輪協力事業所など、対象を広げての開催を検討したい。
- ③認知症カフェは、包括で積極的に関わり、新規カフェを1件立ち上げた。次年度も同様に1件の立ち上げを予定している。また、コロナ感染予防のため休止中の既存委託先も、再開について支援したい。さらに、カフェでの認知症サポーターの活用や相談支援をPRし、カフェを広く住民に周知したい。